



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合っしてほしいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。
よろしくお願いいたします。

★資料名

「何かお手つだいでできることはありませんか」

★今回の道徳の授業のねらい

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てます。

★お話のあらすじと内容

主人公「ぼく」は、電車の中で目の不自由な女の人を見かけました。駅で降りてからも気になりついて歩きます。駅の柱や階段の端にぶつかりそうになるたびにはらはらします。どうしようか迷いますが、決心して声をかけることができ、親切にすることができたという内容です。

★子どもたちの授業で感じたことや振り返り

- ・困っている人を見かけたら、自分のできることはしたいです。それが知らない人であっても、最初はなかなか言えないかもしれないけど、勇気を持って言いたいです。
- ・自分は四年生になったので、下級生が困っていたら、助けてあげたいです。そしてみんなが思いやりの心をもって生活するととても仲良くなれると思いました。
- ・今までは、困っている人を助けたいと思っても、なかなか勇気がなくて言えませんでした。でも授業をして、知らない人でもその人が喜ぶために、勇気をもって声をかけたいと思えました。

★家庭で話し合っしてほしいこと

この時期の多くの子供は、困っている人に親切にしてあげたいという気持ちは持っています。しかし、さまざまな要因によってそれを素直に行動に移せないでいる子供が多い実態が見られます。

相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが重要になります。相手の現在の状況、困っていること、たいへんな思いをしていることなどを想像することによって、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるように声かけをしてあげて下さい。

ただ単に思いやりを持っているだけでは、親切に結びつきません。親切な行為は、それを妨げるさまざまな要因を乗り越えたとき、初めて実行することができるのです。ご家庭でもお子さんとこれまでの経験を語り合い、今後どのように具体的に行動に移していったらいいか、話し合っただければ幸いです。